

朝の館内放送

平成29年11月6日
スピーカー 市長

みなさん、おはようございます。
市長の中村健です。

市長としての就任日、職員のみなさんの前で、物事を決めつけないでほしいということを述べました。

私たちは、つい「正解はひとつ」だと思って、仕事をしたり交渉をしたりしていないでしょうか。

よく「視点を変えて考える」「視野を広げてみる」などと言いますが、固定的な考え方を変えてみようと、チームの中のひとりがそう行動するだけでも、チーム全体が変わるきっかけとなります。

どこから見るか？見たものをどうとらえるか？ということは、多様な視点を受け入れるということにつながります。

これは、チームで仕事をする上で重要な、多様性を活かすために必要不可欠なことです。

ここで、「どこからどう見るか？」ということについて考えてみたいと思いますが、以下の3種類があります。

1つ目は、「視点」です。

同じものでも見る位置を変えると全く違ったものに見えてきます。円錐は上から見ると円に、横から見ると三角形に見えます。

2つ目は、「視野」です。

狭い視野では物事のごく一部しか見えず、全体像を把握することができません。一本一本の木は見えても森が見えていない状態です。

視点を変えれば、となりに生えている木は見えるかもしれませんが、それでもやはり森は見えません。広い視野を持つと森全体を見ることができます。

3つ目は、「視座」です。

視座を高くするというのは物事を見る次元を変えるということ。視野が横の広がりなのに対し、視座は縦の広がりです。

横へ横へと見ていけば無限に関連する事項は増えていきますが、いくらたくさんそれが見えたとしても、何がどう関わりあっているのかが分からなければ、物事の全容は一向に見えてきません。

それよりも、一つでも二つでも上の視点から俯瞰することで、はじめて物事の関係性が見えてきます。

視点が固定され、視野が狭く、視座が低い人は、自分の意見が正しいと信じて疑わず、多様な意見に耳を貸そうとしないものです。

朝の館内放送

そうならないために、今回紹介した「視点・視野・視座」の考え方は、とても有用です。

視点を変えてみる、視野を広げてみる、視座を上げてみることで、固定的な見方にとらわれず、多様性を活かすことができます。

みなさん、ぜひ実践してみてください。

以上で、朝の館内放送を終わります。